



# がん放射線療法看護認定看護師



## 役割

1. 放射線治療を受ける患者を包括的に理解し、個別的なケアを計画・実施できる。
2. 放射線の特徴およびがん放射線療法の治療計画を理解し、治療の再現性の向上・計画期間の遵守のための看護を実践できる。
3. がん放射線療法の有害事象についてアセスメントし、効果的な予防と症状緩和ができる。
4. がん放射線療法において確実な放射線防護策、安全管理を実践できる。
5. がん放射線療法を受ける患者・家族が、セルフケア能力を維持し、QOL向上のための効果的な看護を実践できる。
6. がん放射線療法を受ける患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。
7. より質の高い看護を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。
8. がん放射線療法看護の役割モデルを示し、看護職者への指導・相談対応ができる。

## 実際の活動内容

患者さまとご家族が安心して放射線治療を受けられるよう、治療に関するオリエンテーションや症状マネジメント、有害事象へのケアなどを行っています。治療をするかどうかを決めるときや実際に治療を受けていても悩みや不安を抱えている患者さまやご家族には、そのお気持ちを受け止めつつ納得して決断できるよう一緒に考えます。また多職種が一つのチームとして放射線治療を行っていますので、それぞれの専門性を生かしつつも安全第一に治療が行えるよう調整役を担っています。

## がん放射線療法看護の醍醐味

放射線治療はどんな治療なのかイメージできない方や、放射線という言葉に恐怖を感じられる方もいらっしゃいます。どうお伝えすればわかりやすいかと試行錯誤したオリエンテーションの場で「聞いてよかった、安心しました。」というお言葉をいただくと、少しでもご理解いただけてよかったという思いとともにもっと頑張ろうという気持ちが湧きます。悩みや不安を抱えながらも治療に向き合う患者さまやご家族をサポートしつつ治療を完遂されたときは、治療が終わったという達成感を患者さまやご家族とともに分かち合い「皆さんのおかげでやり遂げることができました。ありがとう。」というお言葉が自身の喜びでもあり励みにもなっています。

治療期間中だけではなく、放射線治療が終わって定期受診にいらした患者さまにお会いして、治療後の様子や有害事象の経過を伺いながら、新たな悩みや不安を抱えている場合にはそのお気持ちを受け止めつつどうすればよいのかをともに考えることもあり、患者さまごとのライフステージに関わることが自身の学びや成長につながっていると実感しています。